

きぼう利用戦略の制定に向けた議論の進め方について(案)

平成 28 年 6 月 13 日

国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構
有人宇宙技術部門

1. 制定の背景・目的等

(1) 背景

- ・ これまで、JAXA の中期計画や総合事業計画のもと、本委員会の前身となる旧きぼう利用推進委員会で審議した「きぼう」利用の方向性や重点的に進めるべき領域を示した利用シナリオ、及びきぼうで実施される宇宙実験のスケジュール等を記載した JAXA 内文書（きぼう利用計画書）に従って「きぼう」利用を推進してきた。
- ・ 2008 年の「きぼう」打ち上げ以来、科学分野等の宇宙実験を通じ、微小重力が有望な分野の特定と利用方法（技術）を構築してきた。しかしながら、近年の我が国宇宙政策の転換や JAXA の国立研究開発法人化等により、「きぼう」利用を取り巻く環境は大きく変化した。
- ・ 今回、上記の環境変化を踏まえ、政府や国民からの「きぼう」利用への期待に応えるとともに、より多くの研究者や民間からの参画を得て「きぼう」利用の成果最大化を進めていくために、JAXA として目指す姿や目標等を掲げ、国内外に広く周知し理解を得て、戦略的かつ組織的に「きぼう」利用を推進していくことが重要と考えた。
- ・ そこで、今般、JAXA 総合事業計画のもと、JAXA 経営・事業方針を踏まえて策定される有人宇宙技術部門事業計画に基づいて、きぼう利用戦略を策定し、我が国としての研究開発成果の最大化への取組に大きく貢献していくこととしたい。

(2) 文書の目的、位置づけ

- ・ 本文書は、2024 年の ISS 運用終了も視野に入れた「きぼう」の目指す姿、2020 年までの目標や成果最大化に向けた取組等を定め、募集制度の設計や募集対象分野の設定、利用プロモーション、実験装置・機器の開発要求等のもととなる指針を示すことを目的とする。本文書の位置付けは、次ページ図 1 のとおり。

(3) その他

- ・ 本文書は、「きぼう」利用を取り巻く状況の変化を踏まえ必要に応じて随時見直しを行う。

2. 議論の進め方

- ① 本委員会では、ご討議いただきたいポイント(資料 2-2)に沿って議論を進め、きぼう利用戦略案に対するご意見を頂く。
- ② 本日のご意見を踏まえて、JAXA 内で引き続き調整を行い、きぼう利用戦略の修正案をまとめる。(7 月末日途)
- ③ 修正案について、メール委員会等にてご審議いただく(要すれば事前に面談にて個別にご説明させていただく)。修正案をご了承いただいた後、JAXA においてきぼう利用戦略初版として制定する。(8 月末日途)

3. その他

きぼう利用戦略の周知、理解増進にあたっては、JAXA 主催のシンポジウムやメディア説明、学会や国立研究開発法人への説明周知を図るほか、本委員会委員の協力も仰いでいきたい。

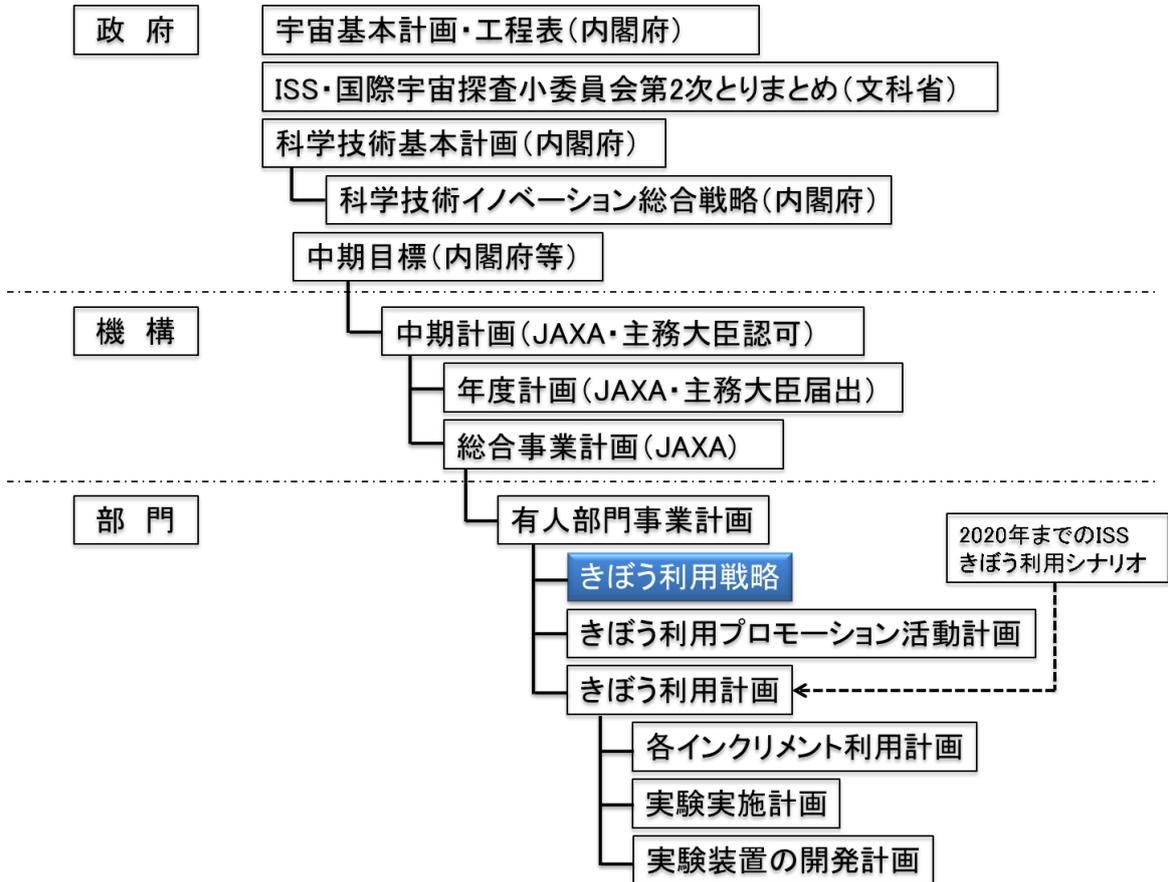


図1 「きぼう」利用に関わる文書体系
(政府文書は、本件に関わるものを掲載している)

以上